大四日市まつりなどのあり方を考える市民会議④議事録

日時：平成16年8月21日(土)13時30分～15時40分

場所：じばさん三重 5階 情報交換室

出席者：委員 別紙出席表のとおり

事務局 商工課 平林課長、永田副参事、駒田勤労観光係長、中本主幹、待井技師

<事務局から資料説明>

大四日市まつりのメインイベントについて各委員の意見を紹介。

市民からのパブリックコメントを紹介。

1. 平成17年度以降の大四日市まつりについて

大四日市まつりのメインイベントは何か

<各委員意見交換>

パブリックコメントの状況はどうなっているか。また、大四日市まつりのあり方などを考える市民会議のホームページは議事録が更新されておらず、情報の発信・受信がうまくいっていないのではないかと。

現在、市民からのパブリックコメントの状況は先ほど紹介した2通のみである。ホームページの更新については対応が遅れている。至急対応したい。

大四日市まつりのメインイベントの方向性を確認したい。前回の会議の中で、フェスティバル形式でおどりフェスタをメインイベントとして考えるべきであると合意が得られたように思うが、山車の参加については、意見が分かれたように思う。ただし、山車の参加をまったくなくしてしまうべきとの意見は少なかったと認識している。そこで、山車の参加については、現在の郷土文化財行列とは違う企画とし、今後も何らかの形で存続させる方向性が望ましいと考えるが、皆さんの意見はどうか。

大四日市まつりへの山車の継続参加については、我々山車の関係者も真剣に議論している。夏に全山車が参加する、あるいは、一部のみが参加する、あるいは、まったく参加しない等、いくつかの選択が考えられる。参加を考える上では担い手の問題も大きい。夏であれば夏休みの時期であるため、子供達は参加しやすいし、大人も休みを取りやすい実態がある。四山文協としては今年度の秋の四日市祭り(10/2~3)の終了後にこの問題の結論を出したい。この問題については、地域のやる気も関わっていると思う。大入道山車は、今年の9月26日に楠町で開催される「ふれあいフェスタ」に参加する。我々が楠町のイベントに参加するのであるから、逆に楠町の鯨船も大四日市まつりに参加してもらいたい。40年間定着してきた山車の参加がなくなれば支障がでると考える。秋は遠足等もあり、担い手が参加しにくい状況もある。また諏訪神社の氏神の祭りであるという問題もある。実は、大入道山車は故障がひどく、修復するには多額の費用がかかる実情である。夏に参加すると山車が傷み故障が出るのは事実であるが、市民の皆さんが期待するなら、今後も大四日市まつりに参加し続け、がんばりたい。

まつりのあり方を最終的に決定する場合は実行委員会になるのか。

市民会議でまつりのあり方を決定するのではなく、意見を提言していただく位置付けである。まつりの方向性について提言していただきたい。企画については、意見を列記する形でまとめれば良いと考えている。

山車の参加については、新しい企画を練って、例えば、隔年参加、あるいは今まで参加していなかった山車も含めて毎年違う山車が参加する等、現在のものとは違う形とすべきである(おどりフェスタをメインとし、山車はサブ企画のひとつとして残す)。また演出の方法であるが、今年のまつりを見て思ったことは、他地域の祭りでは、山車は必ず観客席に向かっ

て演技をしているが、大四日市まつりでは必ずしも観客席に向かって演技がなされておらず、演出が上手になされていないように感じた。

四山文協としてこの4年間悩んできたことは、今までとおりの参加が難しくなってきたからではなかったのか。今後の大四日市まつりのあり方は、山車の参加がない方向で議論すべきである。まつりは文化やまちづくりを担う大きな要因である。今までとおり2ヶ月のインターバルで山車が出演することは良いこととは思えない。夏・秋どちらかへの山車の参加がなくなれば市民の方も残念がると思うが、数年経てばその状況も受け入れてもらえるようになるはずである。四山文協の考えを明確にすべき時期にきているのではないかと。

いずれかの時点で結論をだすが、いろいろな考えがあり、一本化は難しい状況にある。私としては、秋の四日市祭後に、今年状況を踏まえた上で来年度の考えを決定したいと考えている。もうしばらく時間をいただきたい。

市民会議を開くきっかけとなったのは山車の参加の問題である。40年間定着してきた山車の参加について、実行する人たちの会である実行委員会だけで決定することは支障がある。観る側の意見も尊重して考えていくべきあり、そのため、この市民会議を開催し議論していただくこととなった。市民の方の大多数は、まつりを変えることを問題視していないかもしれないが、やはり大入道の意義は大きいと思う。自分なりに大四日市まつりの来場者を分析してみたが、ほとんどの人は、まつりが開催されているということだけで特定の目的をもち来訪される人々である。次に多いのが山車を目的に訪れる人々である。その中でも圧倒的に多いのが大入道を目的に訪れる人々である（実際、問合せの8～9割は大入道の出演時間に関するもの）。そもそもの出発点は山車の問題であるという認識のもと、皆さんで議論いただきたい。

大四日市まつりで大入道が見られなくなったらさみしいのではないかと。

鈴鹿市で開催されている「鈴鹿フェスタ」は、「おどりフェスタ」の3～4倍のおどり連の参加があり見ごたえもある。現状では、山車の参加がまったくなくなれば、極端に観客動員数が減る心配がある。

大入道山車の例で修繕のために多額の費用が必要であるとの話があったが、修繕費の問題が解決できれば、山車のみならず、今後も継続して大四日市まつりに参加することが可能になるのか。

大四日市まつりへの参加を継続していただけるように、出演料ではなく山車の修復費という形で、金銭的に現状よりも支援できる仕組みを検討したいと考えている。

大きな祭りを行うにはお金がかかるもの。四日市市はお金の出し惜しみをしている。祭りを大きくしたいがお金はださないというのが四日市市の方針。それでは大きな祭りになっていかない。また大四日市祭りは全市的な取り組みになっていない。予算が少ないことと全市的な取り組みになっていないことが、大四日市祭りが大きな祭りになっていかない原因と考える。

何を目的に祭りを開催するかでお金のかけかたも変わってくる。例えば、徳島の阿波踊りを例にとると、阿波踊りは観光として広く認識されており、お金を投資しても、多くの来客が見込まれ、確実にお金が地域に落ちる仕組みができている。四日市市の大四日市まつりの場合、観光として広く理解されている状態には至っていないため、現状では、簡単にお金を投資できるものでもないことをご理解いただきたい。また、市全体として補助金を削減する方向で議論が進んでいる中、大四日市まつりの補助金だけを増やすことは難しいということもご認識いただきたい。

今までのものをすべてスクラップしゼロベースで議論すべきとの意見があったが、自分も賛成である。また、お金の話については、今まで支援を受けていたためもっと出して欲しいという発想になるのではないかと。北海道の「よさこい祭り」などは行政のお金をあてにせず、自分達で工夫して運営している。行政がお金をたくさん出すことについては反対である。

地域のバックグラウンドが違うため、よさこいと四日市では対照的すぎないかと。

祭りに対する考え方は普遍的なものではないかと。

ゼロベースの議論は難しいと考える。

北海道の「よさこい祭り」や「名古屋のど真ん中祭り」は、札幌や名古屋という特異性のため成功したと考える。同じベースで議論すべきではない。

本来、氏子の祭りである山車については、大四日市まつりからなくすべきと考える。

商店街の人達が商店街振興のために始めた阿波踊りが今や大成功している。成功している祭りには必ずといって地域の人達が主体になっている。お金の問題ではなく地域の人達が主体になれるかどうかの問題である。また、「よさこい祭り」の流れは、今後、確実に大きくなっていくと思われる。氏子の祭りである山車をフェスタの一環として参加させる方向で考えていくのが良いのではないかと。本来の氏子の祭りは改めて10月に行うこととすれば良い。山車の参加をなくすことは考えないほうが良い。

山車の参加をなくすことは反対。「おどりフェスタ」だけではさみしい祭りになってしまうのではないかと危惧する。

山車の参加について、現状維持では市民会議を開催した意味がない。新たな企画を提案すべきである（おどりフェスタに山車を融合するなど）。

メインイベントを新たなパレードとすべきと考える。人形のパレード（山車を含む）と踊りをミックスしたパレードを企画する。このようにすれば、文化財や人形も観られ、また踊りも楽しむことができ、大いに盛り上がるのではないかと。さらに、地区センター単位でパレードに参加し、全市的な取り組みとする。新しい四日市まつりを生み出すべき。

おどりフェスタをメインとし、山車の参加は新しい企画とする方向性としたしたい。また、新しいパレードについて考えてみたいが、武者行列等のパレードは見ていてもおもしろくない。地域の文化をコンパクトに演出し見せているパレードが成功しているように思う。

市民会議の提言はどの程度反映されるのか、その点についてお聞きしたい。意見のままで終わるのであれば議論する意味がない。

市民会議はまつりの方向性を決める場と捉えていただきたい。最終的には実行委員会で決定する。なぜなら、実行する立場の問題もあるため、市民会議ですべてを決定するわけにはいかないからである（併せて実行できない場合の問題解決案も市民会議で提言できれば良いと考えている）。ただし、市長への提言になるため、実行委員会としても市民会議の提言を無視できないものと思われる（市長への提言という意味は大きい）。

実行委員会と市民会議の擦り合わせはどのように考えているか。

市民会議には、実行する立場の実行委員会からも委員に入ってもらっている。

大入道の修繕に多額の費用がかかるとの話があったが、誰がどのように負担するかの具体的な目処はたっているのか。

中納屋町としては、大四日市まつりに今後も参加し続けたいと考えている。修繕費については10年計画で考える等、毎年、少しずつでもやっていきたい。また、県の文化財予算の適用も要望している。来年も大入道は大四日市まつりに参加する。

山車の修繕を支援する提案をしていきたい。

実行委員会には山車の修繕に関する基金はないのか。

少額ではあるが、山車等復元に関する助成金等交付基金がある。

先ほどの考えは、大入道の中納屋町としての意見であると思うが、山車全体の四山文協の考え方を明確にしていただかないと、せっかくの市民会議の提言が、実現性のないものに終わってしまう危険性がある（何度も会議に出席し、四山文協の意見は、秋に一本化したいという考えが主流であると認識しているが）。

四山文協としては、夏は夏、秋は秋で進めていきたい。

大四日市まつりへの山車の参加については、いくつかの選択が考えられる。まったくなくす。新たな企画のフェスティバルとし残す。今までとおりとする等。

山車の参加について、問題点を明らかにしないと議論できないのではないかと。

担い手の確保、費用的な問題等があると聞いている。

夏は出やすい状況がある。従来とおりの参加とするしかない。秋に一本化した場合、日野町

(西・東)の大念仏が参加できなくなる問題もある。

委員は大四日市まつりに参加を続けたいと言っていたが、他の山車の代表の意見は大四日市まつりへの参加は反対であると認識しているが。

大丈夫である。

自分は御諏訪神輿に関わっているが、御諏訪神輿としては今後も夏・秋両方に参加していく。お金の集め方については、各家、企業・自治会から協賛金を募っている。また担い手の確保については、広く募集を行っており、今年も朝明高校の生徒達が参加していただいた(他には、遠く松阪市や伊勢市から参加いただいている方もいる)。自分としては、山車が大四日市まつりからなくなることは考えたくない。

現状維持ではなく新しい形を模索するために市民会議を開催したはず。山車の代表が従来とおりというのであれば、何のための会議であったかわからない。したがって、山車の参加については、従来とは違う形のものにしていくべきである。

中納屋町では、大四日市まつりの時期になると地区の人口が増える(祭りのために帰省してくる)。

広く市民参加で山車の担い手を募集すべきである。

山車のことはいったん置いて、全体の議論を進めてほしい。

山車の参加については、新企画の方向でまとめることとしたい。次に、開催時期・開催場所について議論を進めたい。

行政が事務局として関わらざるをえない現状では、人事異動の問題があり、4月・5月の開催時期は厳しい。開催時期については、鈴鹿フェスタや桑名の石取り祭りとは重ならない時期が望ましい。

8月1日は市制記念日であり、こういった記念日は大事にしたいものである。

他都市の祭りとの重複よりも、四日市市内の祭りとの重複しないことを優先的に考えるべきではないか(富田のけんか祭りは8月14日・15日等)。

若い人達の参加がより多く見込める時期が望ましい。

豊田市の「おいでん祭り」を観てきたが、中高生の参加が大変多い。気軽に参加できることが参加を増やす要因である。

開催時期は5月とすべき。

本来の開催時期はいつか。

8月の第一日曜日を含む土日である。

いろいろな意見がありまとまらないため、事務局で意見を集約してはどうか。

開催時期については、7月の下旬から8月の第2週ぐらいとしてはどうか。

次に開催場所について議論したい。委員の意見に中央通りで開催すべきという意見があったが。

中央通りの開催は警察が反対するのではないか。

開催場所をどこにするかは別として、四日市駅を降りた人達がどこで祭りをやっているかわからない。もっと案内看板を出して周知を図るべきである。

祭り開催後に、おどりフェスタの反省会を踊り連で行ったが、その際、開催場所について、スターアイランド、商店街、中央通りを輪踊りとする案が出された。また、市民公園を総踊りの場所として活用すべきとの案も出た。

市民公園は活用すべきだ。

来年はユニーがオープンしており、人の流れが変わるはずであり、市民公園を利用するのは良いアイデアと考える。

開催場所については、人の流れを想定して議論すべきである(昔は行き止り型の人の流れを検討したが、現在は、スルー型の人の流れを検討するのが主流)。

次に、サブ企画について考えていきたい。

献花式については、街角に大ビジョンを設置してビジュアル的に市民が参加できるようにしたら良いのではないか。

港まつりについては、大四日市まつりの一部としておくのはもったいない。大四日市まつりから切り離し、ひとつの祭りとして盛り立てていくべきである。

港まつりの開催時期を海の日とするとおもしろいのではないか。

港まつりのカッターレースは祭りにとどめておくのはもったいないような気がする。競技として四日市杯等に育てていくべき。

第一回の市民会議を開催した時に、委員の皆さんから現在の大四日市まつりは総花的であるとのこと批判をいただいた。そのため、事務局としては、メインを明確にし、サブ企画を絞り込むことが望ましいと考えている。

テーマ性をもって食をフェスティバルの中に取り込むことはできないか。また、露天商との話し合いはできるのか。露天の出店が雑然としており整理されていないと感じた。特に萬古祭はひどい有様で、萬古祭というよりも露天の祭りであるとの印象を受けた。

萬古祭については、商工課としては、萬古陶磁器振興協同組合連合会に出店数を増やすことをお願いしている。また、この2年間は、ばんこの里会館の駐車場でイベントが行われたりしている。

中央通りを交通規制し開催が可能になれば（北側車線のみ）、中央分離帯に露天を集め整理できるものとする。

大四日市まつりの現状は、あまりにも露天が雑然として統一がなされていない。また、地場産品の出店を市民参加で可能にならないものか。

大四日市まつりのメインイベント等についてまとめたい。メインイベントは「おどりフェスタ」とし、山車の参加は新しい企画を考えるものとする。開催時期については、7月～8月のいずれかの時期とする。開催場所は別な場所を含めて検討する。サブ企画については、港まつりは大四日市まつりから切り離して考える。献花式・商品祭は今までとおりとする。地場産品や食については、他都市のイベントを研究して新企画を検討する。

サブ企画について、諏訪太鼓はあるものと考えて良いか。諏訪太鼓をもっと活用すべきである。太鼓を子供達に教える場をまつり当日に提供できないか。

今年度、四日市青年会議所の主催行事で、ジャスコ跡地で太鼓のイベントを開催させていただいた時に、子供達へ太鼓を教える場を提供させていただいた。諏訪太鼓振興会として、来年以降も同じことが可能か会の会議に提案させていただきたい。

諏訪太鼓のコンテストを行ったら盛り上がるのではないか。

以前行っていたこともあるが、審査の問題から中止になった経緯があり、諏訪太鼓振興会としては難しいと考える。

人気投票を行う等、審査のやり方は工夫の仕方があるのではないか。

コンテストについても、諏訪太鼓振興会の会議に併せて諮りたい。

例年、太鼓については、音がうるさいとの苦情を市民の方からいただくことが多い。安定した練習場所の確保が太鼓の場合課題である。

市民公園であれば、意外と音も反響せず良いのではないか。

市民公園で太鼓の練習は難しいと考える。

いずれにせよ諏訪太鼓については、ありきで議論すべきものとする。次回については、本日の事項書で議論できなかった2.大四日市まつりにおける市民と行政の役割について議論することといたしたい。

<まとめ>

平成17年度以降の大四日市まつりの方向性

- ・ 基本的にはフェスティバル形式とし、メインイベントは「おどりフェスタ」とする。
- ・ 山車の参加は従来の郷土文化財行列とは違う企画とし、今後も参加を継続できる方法を検討する。
例) 今まで参加していなかった地域の山車にも参加を呼びかけ、毎年、違う山車が参加する形にする、あるいは数年おきに参加する形にする等。
- ・ サブ企画について

- ・ 港まつりは大四日市まつりの一部から切り離し独立した祭りとして盛りたてていく。
- ・ 献花式・商品祭は今までとおりとする。
- ・ 諏訪太鼓については、今まで以上に盛り上がる企画を検討する（コンテスト等）。
- ・ その他の企画については、継続して検討する。
- ・ 開催時期については、7月～8月のいずれかの時期とし、近隣他都市の祭りや市内の地域の祭りとバッティングしない時期にする。
- ・ 開催場所については、現在の場所とは別な場所も含めて検討する。
- ・ 地場産品や食をテーマに、他都市のイベントを研究して新企画を検討する。